



横須賀港

PORT OF YOKOSUKA



2017年(平成29年)3月
横須賀市



横須賀港は、三浦半島の東側、東京湾の入口に位置し、北は横浜市との境の夏島町から南は野比海岸までの港湾区域(水域)約5,530ha、臨港地区約283ha、海岸線延長約61kmの港湾です。横須賀港は、追浜、深浦、長浦、本港、新港、平成、浦賀、久里浜などの13の地区があり、横須賀市が港湾管理者となっています。



① 追浜地区



自動車産業、各種研究所、造船所等の企業が立地し、完成自動車等の輸出入等が行われています。

② 深浦地区



各種工場、造船所が立地しています。また、平成18年度に深浦ポートパークを整備しました。

③ 長浦地区



戦後最初に整備が進められた地区で、捕鯨船の基地として栄えました。現在は、各種工場や倉庫が立地しているほか、海上自衛隊・米軍が利用しています。

④ 本港地区



1865年(慶応元年)、この地に横須賀製鉄所が建設され、港湾としての横須賀港の歴史が始まりました。現在は、主に海上自衛隊・米軍が利用しています。

⑤ 新港地区



横須賀港随一の規模を持ち、SOLAS条約(海上における人命の安全のための国際条約)に基づく港湾施設保安計画に対応した国際ふ頭です。横須賀の中心市街地に隣接し、猿島や三笠公園などの観光地にも近い立地となっています。水深の深い係留施設があるため、完成自動車の輸出・冷凍マグロの輸入などが行われています。

⑥ 平成地区



「海辺の複合リゾート都市」を目標として、職・住・遊・学の機能を融合したまちづくりを進めています。また、大規模地震に備えた耐震強化岸壁を整備した地区です。

⑦ 大津地区



背後に住居、商業施設が立地しています。こうした背後地の安全・安心を図るため、高潮対策として護岸整備を行っています。

⑧ 馬堀地区



平成7、8年の台風により馬堀海岸一帯が浸水の被害を受けたため、親水性を備えた高潮対策護岸の整備を行いました。

⑨ 走水地区



自然の海浜があり、夏は海水浴客でにぎわいます。海浜背後には、横須賀製鉄所ゆかりの走水水源池があり、「ヴェルニーの水」を汲むことができます。

⑩ 鴨居地区



自然豊かな観音崎公園があります。また、観音埼灯台や東京湾海上交通センターも立地し、東京湾の安全を支えています。

⑪ 浦賀地区



江戸時代から中継貿易港として栄えた歴史ある港です。現在、周辺地域を含めた再整備を進めています。また、平成21年度に浦賀ポートパークを整備しました。

⑫ 久里浜地区



ペリー提督が上陸した開国の地です。東京湾の入口に位置し、船で混雑する浦賀水道航路を通らずに入港でき、耐震強化岸壁を整備した地区です。横浜横須賀道路(佐原IC)からも近く、首都圏各地からの物流アクセスが便利な地区です。房総半島へのフェリーのほか、大島(伊豆諸島)への定期航路があります。

⑬ 野比地区



約5km(港湾区域内は約2km)の砂浜が広がっています。海岸侵食による背後地への被害を防ぐために、離岸堤等の整備を進めています。



人々と海がふれあえるウォーターフロントとして、横須賀港の海岸線にはヴェルニー公園から観音崎公園までの海沿いの10kmを結ぶ「うみかぜの路」(海と緑の10,000mプロムナード)が整備され、海辺の憩いのスポットが多くあります。

① ヴェルニー公園



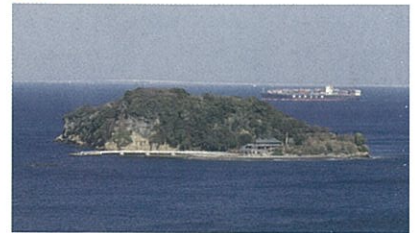
フランス式庭園様式を取り入れた公園です。海上自衛隊・米軍の戦艦を一望でき、旧海軍の戦艦「陸奥」の主砲が設置されています。潮風とともに散歩を楽しめる「うみかぜの路」の起点です。

② 記念艦三笠



1902年(明治35年)にイギリスで建造された戦艦です。日露戦争において、東郷平八郎が乗艦する連合艦隊の旗艦として活躍しました。三笠公園内に保存されています。

③ 猿島



東京湾唯一の自然島で、海水浴、バーベキュー、釣り、散策などが楽しめます。三笠園桟橋から渡船が出ています。

④ 臨港道路小川三春線沿道緑地



幅10mの遊歩道には、緑や季節の花が植えられ、憩いを感じることができます。

⑤ うみかぜ公園



バーベキューが楽しめる芝生広場、スケートボードやマウンテンバイクなどが楽しめるスポーツ広場、親水護岸などがあり、イベント会場としても利用されています。

⑥ 海辺つり公園



四季を通じて海釣りができ、芝生や遊具が整備され、家族連れで楽しめる公園です。

⑦ 馬堀海岸高潮対策護岸



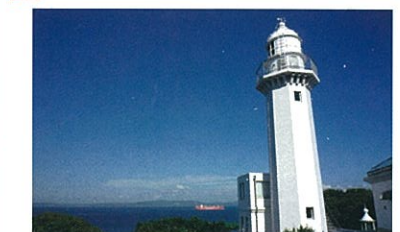
高潮による被害を防止するための護岸です。静穏時には、親水施設として、護岸上部を歩けるプロムナード構造となっています。

⑧ 横須賀美術館



観音崎公園の中にあり、近くで海水浴や散策も楽しめます。また、周囲には灯台や砲台跡などもあり、自然と歴史を感じながら、ゆったりとした時間を過ごすことができます。

⑨ 観音崎灯台



日本初の洋式灯台で、内部の見学が可能です。初代は、フランス人技師フランソワ・レオンス・ヴェルニーらが設計し、1869年(明治2年)に初点灯しました。大正時代に2度の地震によって倒壊し、現在は3代目となります。

⑩ 西浦賀みなと緑地



ペリー来航・咸臨丸出航など歴史の舞台となった浦賀の歴史を感じながら散策を楽しむことができるプロムナードです。

⑪ 浦賀の渡し船



浦賀の東西を結ぶ渡船は、奉行所が浦賀に置かれてからもない1725年(享保10年)ごろから始まる長い歴史があり、ポンポン船の愛称で親しまれ、浦賀のシンボルにもなっています。

⑫ ペリー記念碑



1853年(嘉永6年)、当時鎖国中だった江戸幕府に開国を求めため、ペリー提督が黒船4隻を率いて久里浜海岸に上陸しました。碑文は伊藤博文により書かれました。



凡例

- | | | |
|--------------|------|----------|
| 高速・有料道路(供用中) | 新幹線 | インターチェンジ |
| 高速・有料道路(計画中) | 都県境 | ジャンクション |
| 主要国道 | 港湾区域 | 駅 |
| | | 県庁所在地 |

横須賀港は、首都圏の物流を支える東京湾の入口に位置し、高速道路網の整備により首都圏各地からのアクセスも向上しています。南関東の主要な都市の多くが、横須賀港から60km圏内にあります。

東京湾中央航路(浦賀水道航路)は、世界でも有数の船舶の往来で混雑する海域です。このため、航行する船には12ノット(時速約22km)以内という速度規制があり、東京湾の入口から湾奥まで約3時間を要します。しかし、浦賀水道航路を通らずに寄港できる久里浜地区や浦賀地区から陸上交通に切り替えれば、約1時間で都心まで行くことができます。

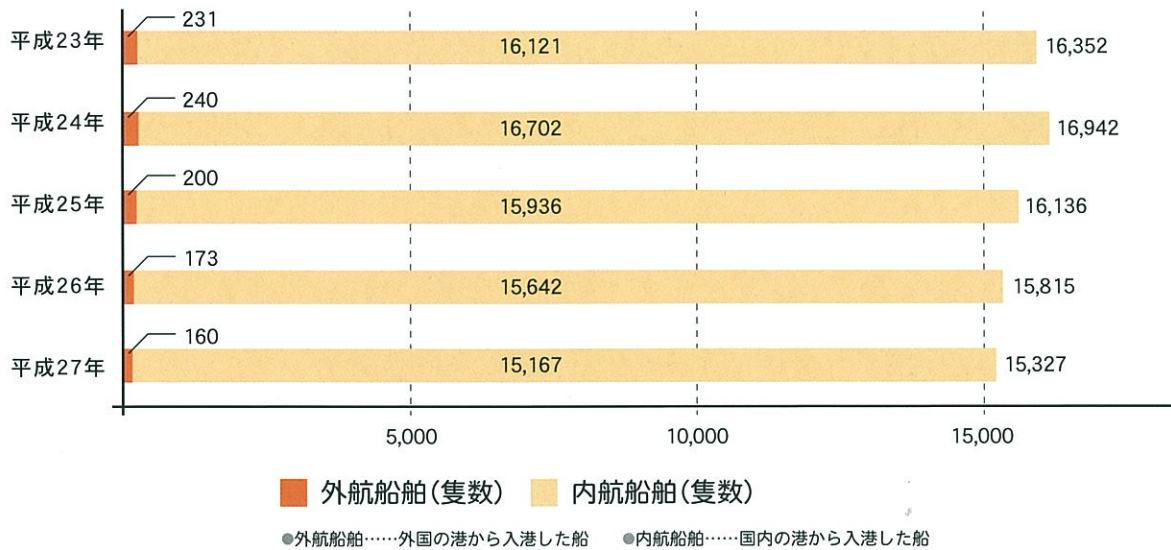
横須賀港は、こうしたメリットを活かした首都圏における内貿ユニットロード[※]や海を利用する人々の交流の拠点づくりを目指しています。

※内貿ユニットロード：船舶で輸送する貨物をコンテナやパレット等の容器に収納し、フェリー等により効率的に海上輸送すること。



横須賀港で取り扱われる貨物は、自動車(完成品及び部品)とフェリー貨物が大部分を占め、その他に砂利・砂などがあります。水産品としては、冷凍マグロの取り扱いが多く、全国有数のマグロ水揚げ港となっています。

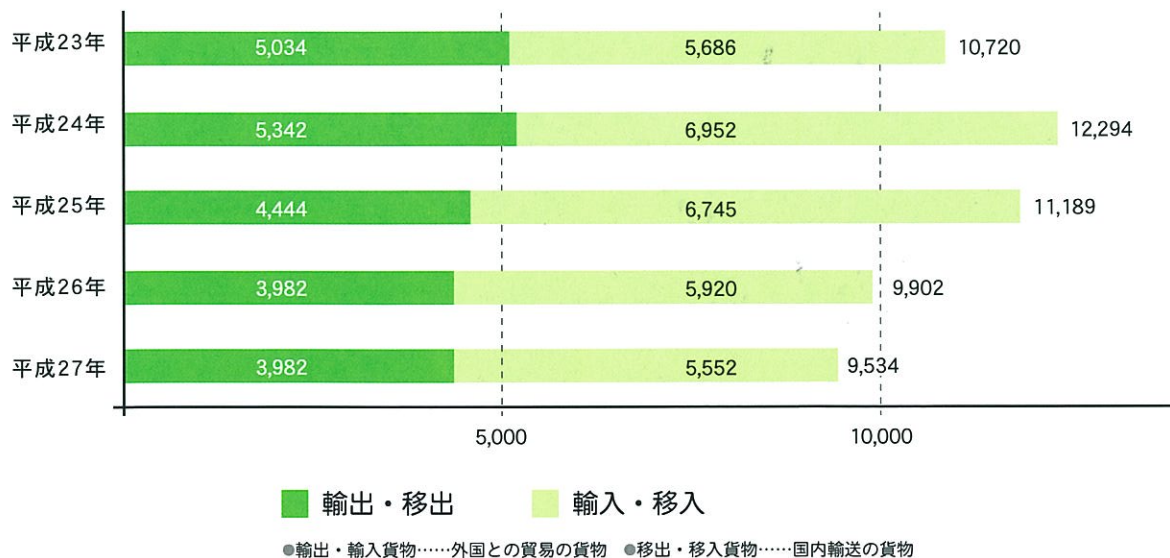
外航・内航別入港船舶隻数の推移 (単位：隻)



船舶乗降人員 <平成27年>

乗込：402,845人	上陸：497,061人	計：899,906人
-------------	-------------	------------

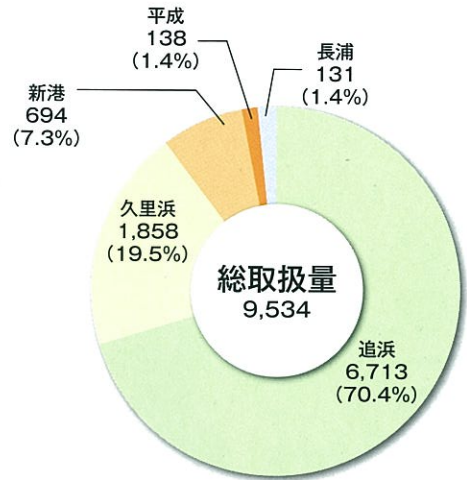
海上出入貨物量の推移 (単位：千トン)



海上出入貨物量地区別取扱表<平成27年> (単位：千トン)

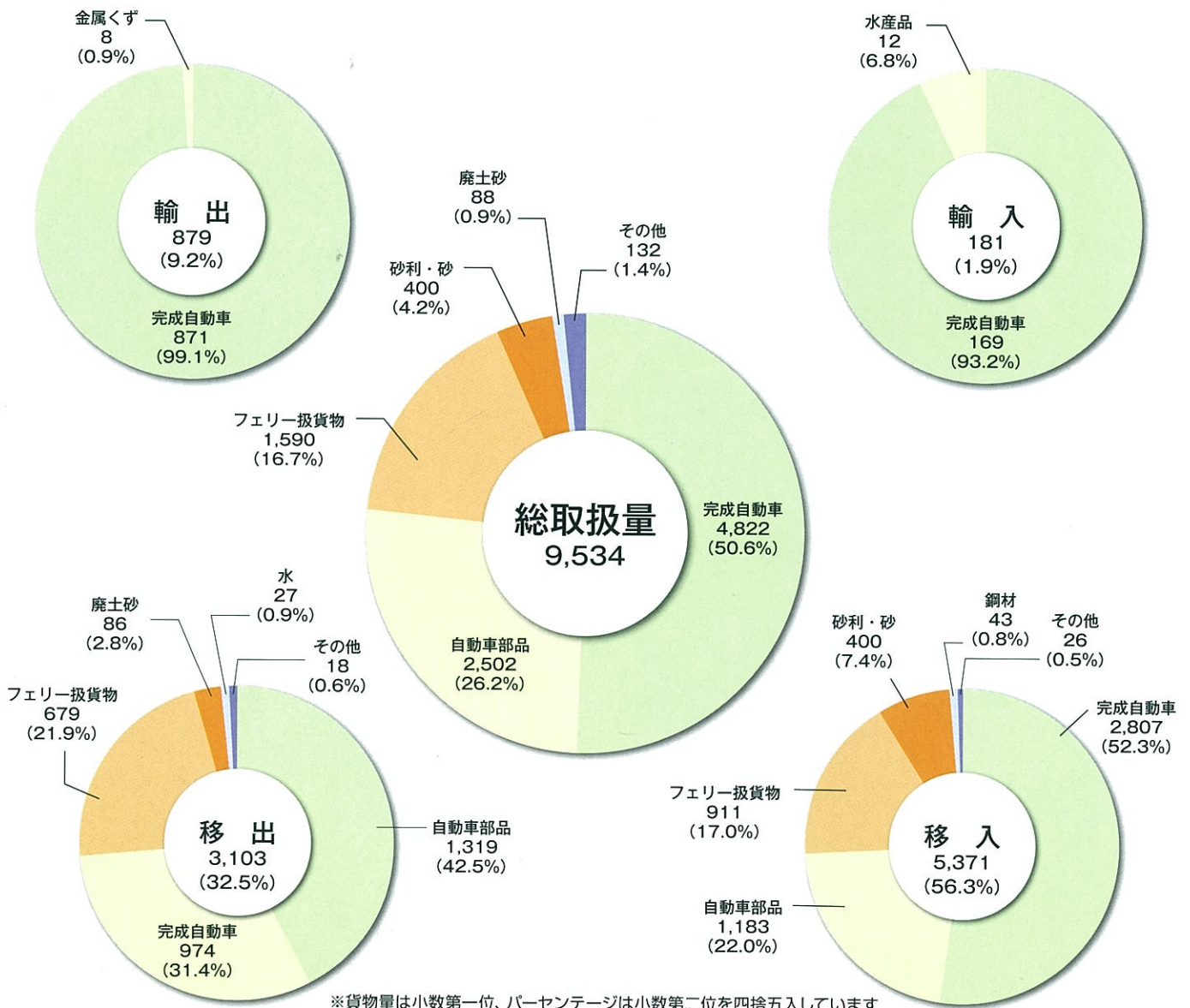
地区	輸移出	輸移入	計
追浜	2,508	4,205	6,713
長浦	33	98	131
新港	679	16	694
平成	2	136	138
久里浜	761	1,097	1,858
合計	3,982	5,552	9,534

※千トン未満を四捨五入しています



※貨物量は小数第一位、パーセンテージは小数第二位を四捨五入しています

取扱貨物品種の構成<平成27年> (単位：千トン)



※貨物量は小数第一位、パーセンテージは小数第二位を四捨五入しています



横須賀市は、「国際海の手文化都市」を都市像として掲げ、海に囲まれた特性を活かし、海を利用する人々の交流の拠点づくりを目指しています。現在、久里浜地区などでは定期航路が就航しています。

また、1年を通して多くの観光客が訪れ、豊かな自然や歴史的遺産を体感できる猿島や、艦船を間近に見ることができ軍港めぐりなど、人気スポットで四季折々の横須賀の港を楽しむことができます。



久里浜と千葉県金谷間11.5kmを約40分で結ぶフェリーです。

使用船舶（乗客定員）：かなや丸、しらは丸（580人）
乗用車：105台 バス：12台

● お問い合わせ先 東京湾フェリー-株久里浜支店
TEL 046-835-8855(代表) <http://www.tokyowanferry.com>



高速ジェット船で久里浜と大島を約60分で結びます(一部期間を除く)。利島、新島、式根島、神津島まで運航する期間もあります。

使用船舶（乗客定員）：セブンアイランド
「愛」「虹」「友」「大漁」(254人)

● お問い合わせ先 東海汽船株お客様センター
TEL 03-5472-9999 <http://www.tokaikisen.co.jp>



新港(三笠棧橋)と猿島を約10分で結んでいます。(12月~2月は土・日・祝日のみ運航)

使用船舶（乗客定員）：シーフレンドゼロ(204人)
シーフレンド1(152人)
シーフレンド3(81人)

● お問い合わせ先 株トライアングル TEL 046-825-7144(三笠営業所) <http://www.tryangle-web.co.jp>



本港地区内の軍港施設を約45分で周遊します。

使用船舶（乗客定員）：シーフレンド7(250人)



横須賀港への
客船寄港
PORT OF YOKOSUKA

横須賀港の新港地区、久里浜地区には客船が寄港しています。船内見学会や市民クルーズなども実施され、多くの市民が港と親しめる機会となっています。

飛鳥Ⅱ



ぱしふいっく
びいなす



おがさわら丸



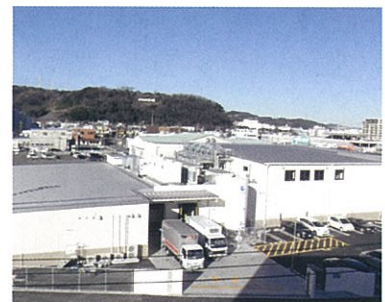
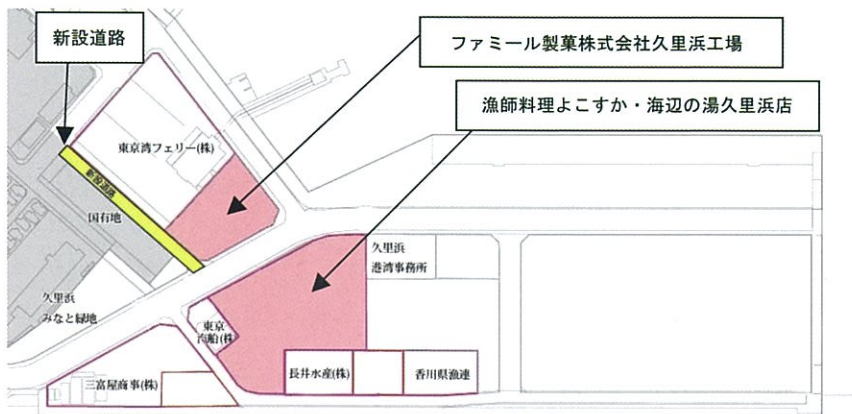
につぼん丸



久里浜港
事業用地
PORT OF YOKOSUKA

久里浜地区では、平成27年度に事業用地の売却及び貸付を行い、新たに2社の事業者が進出し、これに合わせて新設道路を整備しました。

平成29年1月に「漁師料理よこすか・海辺の湯久里浜店」がオープン、また、同年2月に冷凍ケーキ等を製造する「ファミリー製菓株式会社久里浜工場」が操業開始し、東京湾フェリー等の既存事業者とともに、港を中心とした地域活性化の推進が期待されます。



ファミリー製菓株式会社久里浜工場



漁師料理よこすか・海辺の湯久里浜店



横須賀港内には、観音崎や猿島、走水海岸など、東京湾西岸では貴重となった自然海岸や緑地があります。このことは、東京湾内の他の港湾と比べ横須賀港の大きな特徴・財産です。横須賀港は、産業物流の場としての港湾と、自然豊かな環境に配慮した人々の憩いの場としての港湾の両立を目指しています。

また、横須賀港港湾環境計画では、地域の環境や特性に合わせて、横須賀港を「再生のエリア」、「活生のエリア」、「共生のエリア」の3つのエリアに区分するとともに、それぞれのエリアごとに基本方針を設定し、環境との共生を推進しています。

再生のエリア

～環境を修復するエリア～

(追浜地区～新港地区)の基本方針

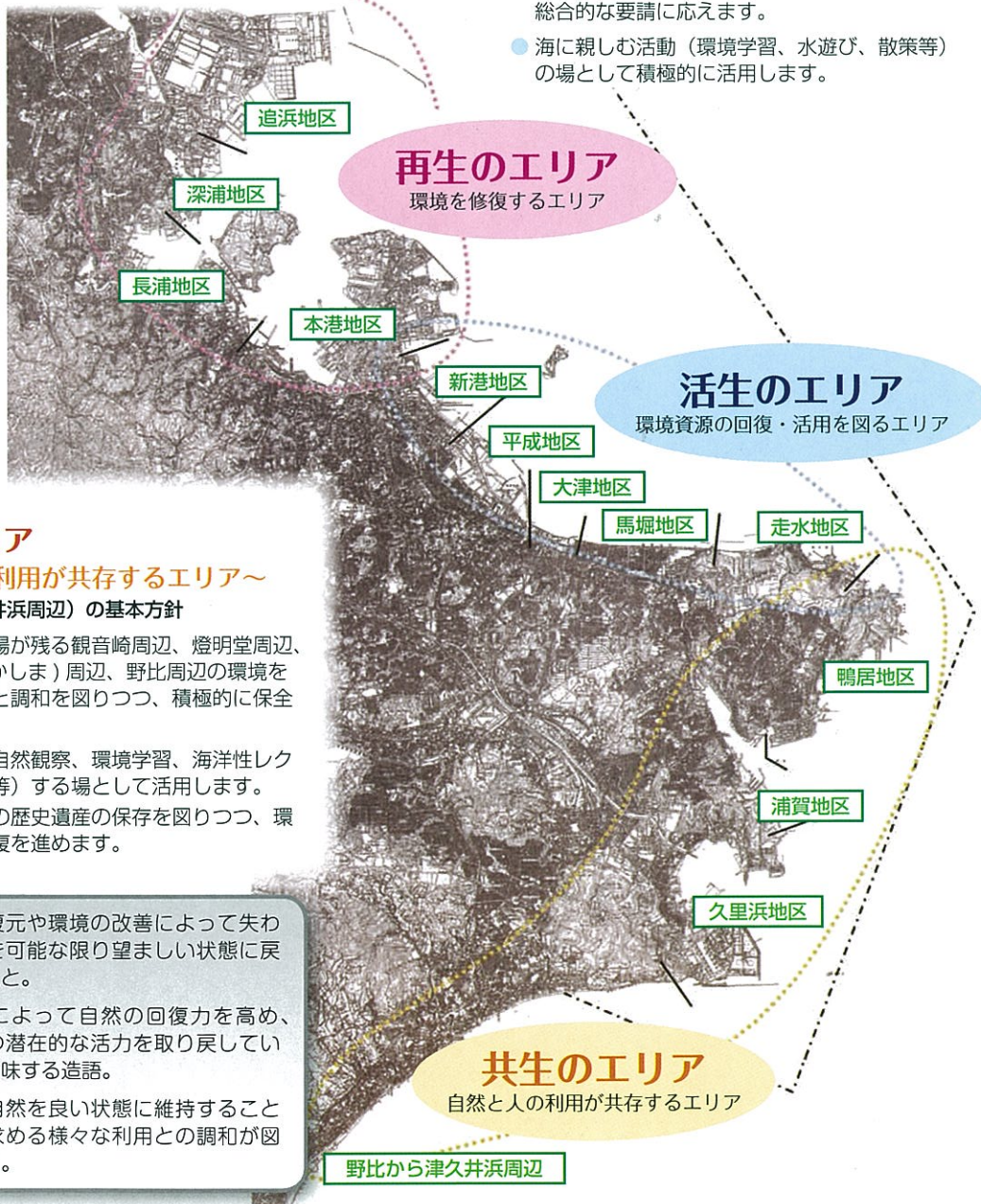
- 企業、防衛施設等との調整により、水辺空間の開放を図ります。
- 近自然的な施設の整備等を進め、自浄機能や生物生息環境の向上を図ります。
- 市民の海に対する関心を高め、エリア内の環境の再生を進めます。

活生のエリア

～環境資源の回復・活用を図るエリア～

(新港地区～走水地区)の基本方針

- 新港から走水に至る広く開放された水際線を持つ特色を活かし、近自然的な施設の整備等による海域環境の修復を図ります。
- 猿島、走水等を中心とした現存の海岸、植生藻場等の維持・修復、歴史資産の保存を進め、生物生息、レクリエーション等の環境における総合的な要請に応えます。
- 海に親しむ活動（環境学習、水遊び、散策等）の場として積極的に活用します。



共生のエリア

～自然と人の利用が共存するエリア～

(走水地区～津久井浜周辺)の基本方針

- 自然海岸と藻場が残る観音崎周辺、燈明堂周辺、海獺島（あしかしま）周辺、野比周辺の環境を港湾等の利用と調和を図りつつ、積極的に保全します。
- 自然を体感（自然観察、環境学習、海洋性レクリエーション等）する場として活用します。
- 浦賀、久里浜の歴史遺産の保存を図りつつ、環境の復元・修復を進めます。

※再生： 近自然の復元や環境の改善によって失われた環境を可能な限り望ましい状態に戻していくこと。

※活生： 環境修復によって自然の回復力を高め、海域の持つ潜在的な活力を取り戻していくことを意味する造語。

※共生： 現存する自然を良い状態に維持することと、人が求める様々な利用との調和が図られること。



横須賀港は、1865年（慶応元年）に徳川幕府の勘定奉行のおぐりこうぞのすけただまさ小栗上野介忠順とフランス人技師フランソワ・レオンス・ヴェルニーが、横須賀村に製鉄所（後に造船所）を建設を開始したことを開港の起源としています。1884年（明治17年）に横須賀鎮守府が設置されて以来、軍港として発展してきましたが、終戦後、旧軍港市転換法の施行により、横須賀市が「平和産業港湾都市」として新たな歩みを始めたのに合わせ、港は旧軍施設を転用し、緊急食糧の輸入・保管が行われるようになりました。

1948年（昭和23年）に貿易港としての指定を受けたのち、1951年（昭和26年）には、港湾法により、重要港湾（国際海上輸送網または国内海上輸送網の拠点となる港湾、国の利害に重大な関係を有する港湾）及び準特定重要港湾（国内産業開発上特に重要な港湾）に指定され、1953年（昭和28年）には、横須賀市が港湾管理者となりました。その後、2010年（平成22年）には、重点港湾（重点的に投資する「選択と集中」を港湾政策にも徹底するという目的で国土交通大臣が指定した港湾）に指定されました。

横須賀港関連		社会の動き	
鎌倉、室町時代	浦賀・深浦が海運の港として活発に利用されていた走水は房総半島への渡海の地だった		
1607（永禄 8）	このころから外国貿易が盛んになる		
1720（享保 5）	浦賀奉行所設置		
1853（嘉永 6）	ペリーが浦賀に来航、のち久里浜に上陸		
1865（慶応元）	横須賀製鉄所建設 横須賀港開港		
1884（明治17）	東海鎮守府が横浜から移転 横須賀鎮守府 となる	1868	明治維新
1903（明治36）	横須賀海軍造船所が横須賀海軍工廠となる	1889	国鉄横須賀線（大船一横須賀）開業
1907（明治40）	横須賀市制施行	1905	日露戦争終戦
1915（大正 4）	横須賀港開港50周年		
1925（大正14）	安浦港竣工		
1937（昭和12）	港湾計画策定		
1941（昭和16）	横須賀軍港の副港として久里浜港工事着手	1918	第一次世界大戦終戦
1945（昭和20）	終戦・港湾施設が接收される	1929	世界恐慌
1946（昭和21）	長浦地区の接收施設の一部が返還され、緊急食糧受入港となる	1937	日中戦争開戦
1948（昭和23）	横須賀港が貿易港としての指定を受ける	1945	第二次世界大戦終戦
1951（昭和26）	横須賀港が重要港湾及び準特定重要港湾の指定を受ける		
1953（昭和28）	横須賀市が港湾管理者となる （長浦・久里浜地区に港湾事務所設置）	1950	朝鮮戦争開戦
1960（昭和35）	久里浜～金谷（千葉県）航路開設（東京湾フェリー（株））	1951	日米安全保障条約調印
1965（昭和40）	横須賀港開港100周年 久里浜ふ頭竣工	1957	世界初人工衛星打ち上げ成功
1974（昭和49）	新港ふ頭竣工 米ロサンゼルス港、ロングビーチ港と姉妹港提携	1964	東海道新幹線開業 東京オリンピック開催
1982（昭和57）	港湾計画改訂	1969	東名高速道路開通
1992（平成 4）	平成地区埋立竣工 海辺つり公園開園	1970	大阪万博開催
1993（平成 5）	港湾計画改訂	1973	第一次オイルショック
1996（平成 8）	うみかぜ公園開園 臨港道路小川三春線開通	1978	新東京国際空港（成田空港）開港
1998（平成10）	久里浜1工区埋立竣工	1979	第二次オイルショック
1999（平成11）	浦賀・鴨居地区埋立竣工	1982	東北・上越新幹線開業
2001（平成13）	久里浜2工区埋立竣工	1990	国際花と緑の博覧会開催（大阪）
2003（平成15）	久里浜～大島航路開設（東海汽船（株）） 横須賀港港湾管理者50周年	1995	阪神・淡路大震災
2004（平成16）	久里浜～大分航路就航 （株）シャトル・ハイウェイ・ライン（平成19年廃止）	1997	京都議定書採択
2005（平成17）	港湾計画改訂 港湾環境計画策定 馬堀海岸高潮対策護岸竣工	1998	長野オリンピック開催
2007（平成19）	横須賀市制100周年	2000	九州・沖縄サミット
2008（平成20）	久里浜3工区埋立竣工 大津1工区埋立竣工	2001	小泉内閣発足
2009（平成21）	野比地区侵食対策事業着手	2002	FIFAワールドカップ日韓大会開催
2010（平成22）	本港地区埋立竣工 横須賀港が重点港湾の指定を受ける	2005	愛・地球博開催（愛知）
2012（平成24）	大津地区高潮対策事業着手	2008	世界金融危機 北海道洞爺湖サミット
2015（平成27）	横須賀港開港150周年	2011	東日本大震災
2016（平成28）	港湾計画・港湾環境計画 改定	2016	熊本地震 北海道新幹線 開業

横須賀港の施設の状況に関する資料集

※資料集内の表中の数値は、すべて2017年（平成29年）3月末時点のものです

1. 施設の状況

1 港湾区域

横須賀港の港湾法に基づく港湾区域は、横須賀市夏島町地先最北端(北緯35度19分49秒、東経139度38分26秒)の地点、同地点から63度50分2,470mの地点、同地点から46度30分1,450mの地点、あしかしま観音埼灯台(北緯35度15分22秒、東経139度44分43秒)から90度1,000mの地点及び同地点から海瀬島澄標(北緯35度12分43秒、東経139度44分07秒)を見透し7,000mの地点を順次に結んだ線、同地点から290度に引いた線並びに陸岸により囲まれた海面で、その面積は55,255,100m²であり、海岸線の延長は61,290mである。

2 港湾区分

港区	面積 (m ²)	港則法による境界	停泊すべき船舶
第1区	1,818,200	吾妻埼から119度に引いた線(以下A線という。)、 <small>あらかしのづか</small> 荒三塚ノ鼻から240度に引いた線(以下B線という。)&及び陸岸により囲まれた海面	各種船舶及び係留施設に係留する場合における危険物を積載した船舶。ただし、雑種船は、沿岸付近に限る。
第2区	1,410,400	吾妻島北端から331度に引いた線(以下C線という。)、B線及び陸岸により囲まれた海面	
第3区	8,925,300	住友重機械横須賀製造所横須賀造船工場艀装岸壁南端から東北防波堤西端まで引いた線、同防波堤、横須賀港東北防波堤東灯台(北緯35度19分09秒東経139度40分31秒)から北緯35度18分32秒東経139度41分58秒の地点まで引いた線、同地点(以下D地点という。)&から215度に引いた線(以下E線という。)、A線、C線及び陸岸により囲まれた海面	各種船舶及び係留施設に係留する場合における危険物を積載した船舶。
第4区	10,086,900	D地点から0度に引いた線(以下F線という。)、第3区境界線、港界線及び陸岸により囲まれた海面	各種船舶及び危険物を積載した船舶。
第5区	21,858,400	観音埼灯台から90度に引いた線(以下G線という。)、E線、F線、港界線及び陸岸により囲まれた海面	各種船舶。ただし、沿岸付近に限る。
第6区	4,565,900	千代ヶ崎から70度に引いた線、G線、港界線及び陸岸により囲まれた海面	各種船舶。
第7区	6,590,000	第1区から第6区までを除いた広域内海面	各種船舶及び係留施設に係留する場合における危険物を積載した船舶。ただし、総トン数300トン未満の漁船及び雑種船は、沿岸付近に限る。

3 水域施設

a) 泊地

種別	地区	名称	面積 (m ²)	水深 (m)
被覆内	追浜地区(第3区)	夏島泊地	229,100	-12.0
	長浦地区(第2区)	長浦1号泊地	102,900	-5.0
		長浦2号泊地	293,000	-10.0
	本港地区(第1区)	本港1号泊地	217,000	-10.0
	新港地区(第3・5区)	新港泊地	593,700	-10.0
	浦賀地区(第6区)	浦賀1号泊地	239,130	-6.5
		浦賀2号泊地	20,250	-5.0
		浦賀3号泊地	101,550	-8.5
	久里浜地区(第7区)	久里浜1号泊地	476,200	-9.0
		久里浜2号泊地	40,778	-7.5
久里浜3号泊地		68,222	-9.0	
久里浜A錨地B錨地		207,300	-35.0	
被覆外	第4区(検疫錨地)	港外泊地	6,136,050	-9.0
計			8,725,180	

b) 船だまり

地区	名称	面積 (m ²)	水深 (m)
深浦地区(第2区)	深浦船だまり	114,000	-3.0
長浦地区(第2区)	船越船だまり	45,300	-4.4
	田浦船だまり	44,440	-4.4
	長浦ふ頭船だまり	38,080	-3.0
本港地区(第1区)	吉倉船だまり	38,800	-4.0
	逸見船だまり	104,550	-5.0
平成地区(第5区)	平成船だまり	42,056	-5.0
浦賀地区(第6区)	東浦賀船だまり	32,550	-5.0
	西浦賀1号船だまり	14,950	-2.5
	西浦賀2号船だまり	14,410	-5.0
久里浜地区(第7区)	久里浜北船だまり	20,400	-4.5
計		509,536	

4 係留施設

a) 岸壁、栈橋、浮栈橋（-4.5m以上）

種別	地区	名称	延長 (m)	水深 (m)	接岸能力 (D/W)	船席	
公 共	追浜	夏島岸壁	120	-4.5	700	1	
	新港	新港1号岸壁	200	-10.0	15,000	1	
		新港2号岸壁	200	-10.0	15,000	1	
		新港3号岸壁	240	-4.5	700	4	
		新港4号岸壁	65	-4.5	700	1	
		新港1号栈橋	90	-5.5	2,000	1	
		新港2号栈橋	90	-5.5	2,000	1	
		新港3号栈橋	130	-7.5	5,000	1	
	平成	平成1号岸壁	120	-4.5	700	2	
		平成2号岸壁	270	-5.5	2,000	3	
		平成突堤式栈橋	71	-6.5	-	-	
	久里浜	久里浜岸壁	220	-6.5	3,000	2	
		久里浜1号岸壁	260	-7.5~-9.0	16,000G/T	1	
		久里浜2号岸壁	80	-5.0	1,000	1	
		長瀬岸壁	140	-4.5	700	2	
		長瀬1号栈橋	26	-6.7	-	-	
	計			2,322			22

種別	地区	名称	管理者	延長 (m)	水深 (m)	接岸能力 (D/W)	船席
専	追浜	住重追浜造船所艀装岸壁	住友重機械工業(株)	656	-9.0	300,000	2
		住重追浜造船所水切岸壁	//	60	-6.0	700	
		海洋研究開発機構栈橋	国立研究開発法人 海洋研究開発機構	220	-8.0	8,687G/T	2
		日産1・2号栈橋	日産自動車(株)	435	-12.0	34,000G/T	2
		日産3・4号栈橋	//	260	-7.5~-10.0	15,000	2
		日産5号栈橋	//	90	-5.5	2,000	1
		日産6号栈橋	//	185	-10.0	18,000	1
長浦	海上保安部5号浮栈橋	第三管区海上保安本部	40	-5.0	-	2	
新港	シーボニア浮栈橋	(株)エスパルスドリームフェリー	20	-6.7	-	1	
用	浦賀	サニーサイドマリーナ中突堤	湘南サニーサイドマリーナ(株)	33	-5.0	700	1
		サニーサイドマリーナ岸壁	//	100	-5.0	1,000	1
		住重浦賀工場1号ドック岸壁	住友重機械工業(株)	50	-5.0	1,000	1
		住重浦賀工場東岸岸壁	//	545	-6.5~-9.0	33,000	3
		住重浦賀工場機関艀装岸壁	//	60	-5.0	2,000	1
		東電B岸壁	東京電力フュエル&パワー(株)	100	-5.0	1,000	1
久里浜	東電C岸壁	//	416	-9.0	10,000	2	
	東電D岸壁	//	282	-11.5	10,000	1	
	東京湾フェリー(株)1号栈橋	東京湾フェリー(株)	74	-5.5	3,580G/T	1	
	東京湾フェリー(株)2号栈橋	//	71	-5.5	3,580G/T	1	
	計				3,697		

公共と専用の合計

延長 6,019m

船席 49席

b) 物揚場・棧橋・浮棧橋・船揚場(水深-4.5m未満)

施設別		施設数と延長		合計	
		施設数	延長 (m)	施設数	延長 (m)
公共用	物揚場	34	2,494		
	棧橋	12	319		
	浮棧橋	11	185		
	船揚場	13	1,015		
	計	70	4,013		
専用	物揚場	3	263		
	棧橋	5	205		
	浮棧橋	15	3,111		
	船揚場	2	219		
	計	25	3,798		
合計		95	7,811		

※米軍・防衛省、ポートパークを除く

c) 係留浮標 (公共用)

地区名	名称	最大係船能力 (トン)
長浦	N ₁₀	800
	N ₁₂	800

※ポートパークを除く

d) ポートパーク

地区名	名称	艇長 (m)	係留可能隻数
深浦	深浦ポートパーク浮棧橋	~12	99
	深浦ポートパーク係船浮標	-	20
浦賀	浦賀ポートパーク浮棧橋	~10.5	65

※放置艇対策事業としてポートパークを整備

5 駐車場

区分	深浦ポートパーク駐車場	浦賀ポートパーク駐車場	うみかぜ公園駐車場		海辺つり公園駐車場
種別	普通自動車	普通自動車	大型自動車	普通自動車	普通自動車
台数	53	12	2	182	95

6 荷さばき施設と保管施設

a) 荷さばき地

所在地	浦郷	深浦	長浦	新港	平成	西浦賀	長瀬	久里浜	合計
面積 (㎡)	1,902	591	5,989	17,372	30,568	2,919	17,822	16,316	93,479

b) 野積場

所在地	新港	久里浜	合計
面積 (㎡)	43,118	28,399	71,517

c) 上屋及び倉庫

種別	名称	所在地	経営者	棟数	総床面積 (㎡)	構造		
						主要用材	階数	
上屋	公共	新港上屋	新港ふ頭	横須賀市	1	2,312	鉄骨鉄筋コンクリート	一部2階
倉庫	専用			民間	26	71,727		

7 給水施設（公共用）

種類	給水場所	数量	摘要
水 柱	長 浦 1 号 物 揚 場	1 栓	□径65ミリ
	新 港 1 号 棧 橋	3 栓	〃
	新 港 2 号 棧 橋	2 栓	〃
	新 港 3 号 棧 橋	3 栓	〃
	新 港 1 号 岸 壁	4 栓	〃
	新 港 2 号 岸 壁	4 栓	〃
	新 港 3 号 岸 壁	2 栓	〃
	新 港 4 号 岸 壁	1 栓	〃
	平 成 2 号 岸 壁	3 栓	〃
	浦 賀 物 揚 場	2 栓	〃
	久 里 浜 岸 壁	4 栓	〃
	久 里 浜 1 号 岸 壁	1 栓	〃
	久 里 浜 2 号 岸 壁	1 栓	〃

※経営者は横須賀市

8 港湾環境整備施設（公共用）

種類	名 称	延長(m)
海 浜	走 水 海 浜	965
	観 音 崎 海 浜	190
	た た ら 浜	210
緑 地	浦 郷 み な と 緑 地	2,715
	新 港 地 区 緑 地	8,512
	う み か ぜ 公 園	52,506
	平 成 地 区 緑 地	12,433
	海 辺 つ り 公 園	23,148
	西 浦 賀 み な と 緑 地	6,298
	久 里 浜 み な と 緑 地	2,789
その他	走水観音崎遊歩道	1,740

2. 港湾施設使用料

種類	使 用 料 金		
岸壁・棧橋・物揚場	定期船	船舶の総トン数1トンごと	係留時間24時間までごとに 5円
	定期船以外の船舶	船舶の総トン数1トンごと	係留時間24時間までごとに 11円
係船浮標	総トン数 1,000トン未満	の船舶	係留時間24時間までごとに 4,830円
	総トン数 1,000トン以上	3,000トン未満	の船舶 係留時間24時間までごとに 9,670円
上 屋	新 港	専用使用	1㎡までごとに 1月 770円
		一般使用	貨物搬入の日から15日まで 1㎡または1トンまでごとに 1日 17円
			貨物搬入の日から16日以後 1㎡または1トンまでごとに 1日 34円
荷さばき地	長浦港、浦賀港 及び久里浜港 (久里浜1号・長瀬)	専用使用	1㎡までごとに 1月 103円
		一般使用	貨物搬入の日から15日まで 1㎡までごとに 1日 4円
			貨物搬入の日から16日以後 1㎡までごとに 1日 7円
	新港、平成港 及び久里浜港 (久里浜2号・3号)	専用使用	1㎡までごとに 1月 167円
		一般使用	貨物搬入の日から15日まで 1㎡までごとに 1日 6円
			貨物搬入の日から16日以後 1㎡までごとに 1日 9円
野 積 場	専用使用	1㎡までごとに 1月 167円	
	一般使用	貨物搬入の日から15日まで 1㎡までごとに 1日 6円	
		貨物搬入の日から16日以後 1㎡までごとに 1日 9円	
船舶給水	5㎡まで 5㎡を超える1㎡までごとに ただし、執務時間外に船舶給水を行う場合は、その料金の額に5割を加算する。		3,800円 760円
船舶給電	1キロワット1時間までごとに		81円



〒238-8550 神奈川県横須賀市小川町 11 番地
横須賀市港湾部

電話：046(822)9802 FAX：046(826)3210

URL：http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/
6620/minato/kikaku/

E-mail：pp-ph@city.yokosuka.kanagawa.jp



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

※このパンフレットは、2,000部作成し、1部あたりの印刷費は95円です。